

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案） 対 比 表

平成 1 5 年 1 1 月 5 日

国土交通省河川局

阿武隈川水系工事实施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事实施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
阿武隈川水系工事实施基本計画 目 次 １．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針・・・・・・・・・・ １ ２．河川工事の実施の基本となるべき計画に関する事項・・・・・・・・ １ １ （１）基本高水並びにその河道及び洪水調節ダムへの 配分に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １ １ （２）主要な地点における計画高水流量に関する事項・・・・・・・・ １ ２ （３）主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・ １ ４ ３．河川工事の実施に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １ ３ （１）主要な地点における計画高水位、計画横断形その他 河道計画に関する重要な事項・・・・・・・・・・・・ １ ３	阿武隈川水系河川整備基本方針（案） 目 次 １．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針・・・・・・・・・・ １ （１）流域及び河川の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １ （２）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針・・・・・・・・・・ ７ ２．河川の整備の基本となるべき事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １ １ （１）基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への 配分に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １ １ （２）主要な地点における計画高水流量に関する事項・・・・・・・・ １ ２ （３）主要な地点における計画高水位及び計画横断形に 係る川幅に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １ ３ （４）主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・ １ ４ （参考図）阿武隈川水系図

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
1．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 阿武隈川水系は、その源を福島県西白河郡西郷村大字鶴生旭岳に発し、阿武隈高地および奥羽山脈から発する社川、大滝根川、荒川、摺上川等の支川を合わせて中通り平野を北流し、狭さく部を経て宮城県に入りさらに白石川等の支川を合わせて太平洋に注ぐ。 その流域は、福島、宮城、山形三県にまたがり、面積は、5,400km²に及び、東北地方における社会、経済、文化の基盤をなし、本水系の治水と利水についての意義はきわめて大きい。	1．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 （１）流域及び河川の概要 阿武隈川は、その源を福島県西白河郡西郷村大字鶴生の旭岳（標高1,835m）に発し、大滝根川、荒川、摺上川等の支川を合わせて、福島県中通り地方を北流し、阿武隈溪谷の狭窄部を経て宮城県に入り、さらに白石川等の支川を合わせて太平洋に注ぐ、幹川流路延長239km、流域面積5,400km²の一級河川である。 その流域は、福島、宮城、山形の三県にまたがり、福島市をはじめとする10市33町13村からなり、流域の土地利用は、山林が約77%、水田や畑地等の農地が約19%、宅地等の市街地が約4%となっている。流域内には、福島県中通りの郡山市や福島市、宮城県南部の岩沼市等の都市があり、この地域における社会・経済・文化の基盤を成すとともに、自然環境・河川景観に優れていることから、本水系の治水・利水・環境についての意義は、きわめて大きい。 阿武隈川流域は、四方を日光国立公園、磐梯朝日国立公園、阿武隈高原中部県立公園、霊山県立自然公園、蔵王連峰国定公園の山々に囲まれ、白河・郡山・福島・角田などの盆地と福島県指定名勝及び天然記念物に指定されている阿武隈峡や宮城県立自然公園となっている阿武隈溪谷などの狭窄部を交互に流れ、河床勾配が1/200～1/4,000と変化に富んだ河川景観と豊かな自然環境を形成している。一方、沿川には、東北新幹線、東北自動車道、国道4号等の基幹交通施設が整備され、交通の要衝となっている。 流域の東側の阿武隈山地は花崗岩類で占められており、一方西側の奥羽山脈は安山岩類や流紋岩等を火山噴出物が覆っている。阿武隈川は、その間を阿武隈山地に偏って流れ、洪積層・沖積層の盆地、平野が形成されている。流域の年間降水量は阿武隈山地が約1,200mm、奥羽山脈が約1,500mm、平野部が

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
	約1,100mm となっている。 山間溪谷部を流下する源流付近は、奥羽山脈の雄大な連峰を背にブナやナラ類等の広葉樹林帯を流れ、瀬、淵の連続する溪流にはイワナやヤマメ等が生息している。 郡山盆地を流下する上流域は、流れも緩やかで沿川には郡山市等の都市が形成されている。高水敷には帰化植物が多く侵入しているものの、水際にはカヤネズミの営巣場となるヨシ等の抽水植物やオギ等の湿生草地、オオムラサキの生息場となるエノキ等の樹林が小面積ながらも形成されている。水域では、メダカやゼニタナゴ等の緩流域を好む種の生息が確認されている。 上流から中流にかかる阿武隈峡は河床勾配が $1/30 \sim 1/300$ と急流で岩肌が露呈し、蛇行を繰り返しながら流れ、蓬萊岩や稚児舞台等をはじめとする、数多くの奇岩が点在する壮大な峡谷景観となっており、福島県指定名勝及び天然記念物となっている。コナラやエノキ等の生育する樹林には、モリアオガエルやオオムラサキ等が生息し、水域では早瀬の水裏等に砂泥底を好むスナヤツメ等が生息しており、<u>また河口から83kmにある信夫ダムの直下まで天然のアユやサクラマス・サケが遡上し、砂礫河床となっている早瀬はアユやサケの産卵場となっている。</u>一方、信夫ダム上流部ではオイカワ、ウグイ、ニゴイや放流アユ等が生息している。 福島盆地を流下する中流域は、福島市街地が形成されており、川幅もやや広くなり、流れも緩やかである。高水敷には帰化植物の侵入が多く見られるものの、オギ、ヨシの群落やヤナギ類等が水際線を形成しており、水辺にはカワセミやオオヨシキリ等のほか、冬にはハクチョウやカモ類の渡り鳥の飛来も多い。 中流から下流にかかる宮城・福島県境の阿武隈溪谷は、廻り石をはじめとして数多くの奇岩が点在し、岩肌の続く溪谷美を呈して蛇行を繰り返しながら流れ、周囲のコナラやケヤキ等の樹林にはカワセミ・ヤマセミ等が生息し、水域では天然アユやサケ・サクラマスの遡上が見られ、宮城県立自然公園となっている。また、藩政時代には江戸の商人である渡辺友意が福島から河口までの航路を開削し、舟運が盛んに行われ

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
	ていた。今も当時の舟番所跡を残しており、現在では、阿武隈川舟運の歴史と阿武隈川の溪谷美を活かした観光舟下りが行われ、観光地としても名高い区間である。 仙台平野の南部を流れる下流域は、河床勾配が緩く川幅も広く、雄大な流れをみせており、角田市、岩沼市街地が形成されている。広い高水敷にはオギやヨシ等の群落が形成され、オオヨシキリやセッカ等の生息場となっている。水域にはアユやコイ、モクズガニ等が数多く確認されており、砂礫河床となっている早瀬はアユやサケの産卵場となっている。 河口には干潟が分布し、砂地には海洋性のハマニソクやコウボウムギの植物群落のほか、汽水性のボラやアシシロハゼ等が生息しているとともに、カモメ類の集団 郷 となっているほか、シギ・チドリ等渡り鳥の休息地でもある。また、藩政時代には安定した物資の輸送路確保として、仙台藩初代藩主伊達政宗の命により家臣川村孫兵衛重吉が名取川河口から阿武隈川までの海岸線と平行に木曳堀を開削し、その後も北上川まで運河が延伸され、日本一長い貞山運河として現在も舟運全盛時代の面影を残している。 阿武隈川の河川名の由来は、盆地及び平野部で大きく蛇行しているため「大曲川」と言われたのが語源で、その後、鎌倉時代の歴史書である吾妻鏡に「逢隈」とあり、「おほくま」「あふくま」「あぶくま」と転じて阿武隈川になったといわれている。 阿武隈川は、平安時代の「古今和歌集」や「後撰和歌集」にも詠われている。また、日本の滝百選に選ばれた乙字ヶ滝は、江戸時代に松尾芭蕉が「おくのほそ道」道中で「五月雨は滝降りうづむ水かさ哉」と句を詠んでおり、昭和初期には高村光太郎が「智恵子抄」の中で「あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川」と謳われるなど、阿武隈川は良好な景観を有する河川として知られていた。 阿武隈川は、上流域の白河盆地を過ぎた付近から北向きに流れを変え台風の進路と同じ方向となるため、台風の北上と流出量の増加が重なり、狭窄部によ

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
治水事業の沿革は、下流部については昭和11年から、上流部については、大正8年から直轄事業として岩沼、福島における計画高水流量をそれぞれ6,000m³/sec、3,900m³/sec とし、改修工事に着手した。 しかし、昭和16年7月に上流部において計画高水流量を大巾に上まわる大洪水があり、昭和17年に福島における計画高水流量を4,400m³/sec と改定した。 さらにその後、昭和22年9月及び昭和23年9月の大洪水に鑑み、全川にわたって再検討を行い、昭和26年に計画高水流量を、岩沼6,500m³/sec、福島4,500m³/sec と改定した。 しかしながら、昭和33年9月、昭和41年6月等その後の出水並びに流域内の開発状況等にかんがみ、昭和49年に基準点岩沼において基本高水のピーク流量を10,700m³/sec とし、これをダム群により1,500m³/sec 調節し、計画高水流量を9,200m³/sec とする現計画を決定した。	<u>る影響と相まって洪水の発生しやすい地形となっていることから過去たびたび甚大な洪水被害を受けてきた。</u>阿武隈川の洪水に関する最古の記録は、「カンジュウシの洪水」と言い伝えられてきた平安時代（寛治四年）の洪水がある。狭窄部においては、古くは天和二年(1682年)から水害の記録が残っている。 治水事業の沿革は、宮城・福島県境から上流部については、福島における計画高水流量を3,900m³/s として大正8年から直轄事業として改修工事に着手し、福島地区、郡山地区で大規模なショートカットなどが行われた。また、県境から河口までの下流部については、岩沼における計画高水流量を6,000 m³/s とし、昭和11年から直轄事業として改修工事に着手した。 しかし、昭和16年7月に上流部において計画高水流量を上回る大洪水があり、昭和17年に福島における計画高水流量を4,400m³/s と改訂した。さらにその後、昭和22年9月及び昭和23年9月の大洪水に鑑み、治水計画を全川にわたって再検討を行い、昭和26年に福島の計画高水流量を4,500m³/s に、昭和28年に岩沼の計画高水流量を6,500m³/s と改訂した。また、昭和33年9月、昭和41年6月等その後の出水並びに流域内の開発状況にかんがみ、昭和49年に基準地点岩沼において基本高水のピーク流量を10,700m³/s とし、これをダム群により1,500m³/s 調節して計画高水流量を9,200m³/s とする計画とした。また、基準地点福島において基本高水のピーク流量を7,000m³/s とし、これをダム群により1,200m³/s 調節して、計画高水流量を5,800m³/s とする計画とした。この計画に基づき、平成3年に七ヶ宿ダムが、平成9年に三春ダムが完成し、現在に至っている。 <u>近年においても、HWLを超える大規模な洪水が相次いで発生し、戦後最大の出水を記録した昭和61年8月の台風による洪水では、死者4名、被災家屋20,216戸、浸水面積15,117ha という甚大な被害を受け、支川広瀬川等では激特事業により引堤等の改修が行なわれた。また、平成10年8月には、未曾有の長期間にわたる大雨により、死者11名、被災家屋2,096戸、浸水面積3,631ha に達する被害が生じ、社会及び地域経済に大きな損害を与えた。上流部ではこの洪</u>

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
河川の利用については、農業用水として約40,000ha に及ぶ耕地のかんがいに利用され、水力発電としては明治28年に建設された庭坂第一発電所を初めとする現在32箇所の発電所による総最大出力約70,000kw の電力の供給が行われ、また、都市用水として福島市等に対して供給を行っている。	水への対応として「平成の大改修」と称し、築堤や堤防補強、遊水地等の抜本的な治水対策を実施した。さらに、平成14年7月においても、無堤部や狭窄部など各地で浸水被害が発生し、地形特性を活かした治水対策が急務となっている。 砂防事業は、明治33年に福島県が荒川流域において着手したが、地質が温泉作用による変成によって著しく脆弱化しており、崩壊地も多く、大量の土砂流出があるため、工事が至難なことから昭和11年より直轄事業として実施している。さらに、カスリン台風、アイオン台風などにより土砂災害が頻発したことから、昭和25年から松川流域を、昭和52年から須川流域をそれぞれ直轄事業に着手している。 河川水の利用については、阿武隈川の上流域では古くから水不足に悩まされてきたことから、明治政府は農業用水不足に悩む安積平野に、オランダ人技師ファン・ドールンの設計監修により、他流域である猪苗代湖から安積疏水による導水を行った。その後発電用水・工業用水などにも利用され、郡山市の発展に寄与した。阿武隈川では、現在、農業用水として約39,000ha の耕地のかんがいに利用され、水力発電として明治39年に建設された前田川発電所をはじめとする23箇所の発電所により総最大出力約94,000kw の電力供給が行われている。また、上水道としては郡山市、福島市、岩沼市等の沿川諸都市に対して供給され、工業用水としては、製紙業、紡績業、重化学工業等の沿川工場等に対して供給されている。 水質については、高度経済成長期には、工場立地等による排水や都市化の進展によって上流域を中心として水質が悪化していたが、その後の法規制や下水道の整備等により徐々に改善されてきている。しかし、依然として東北地方では最も水質の悪い水系であることから、阿武隈川沿川29市町村で構成される「阿武隈川サミット」が組織され、流域全体での生活排水の浄化等の取り組みも始

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
	<u>まっている。</u> 河川の利用については、上流部では自然の流れを利用したカヌーが行われており、中流部では灯籠流しや花見、散策、釣りなど、人々の憩いの場として活用されている。下流部では、堤防を利用したサイクリングロードが整備され、サイクリングや散策に活用されているほか、観光舟下りやいかだ下り等が行われている。また、沿川の水辺の楽校等水辺拠点において、川を軸とした地域交流、体験学習等に活用されている。

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川工事の現状、砂防・治山工事の実施、水害発生^{（ウタ）}の状況及び河川の利用の現状（水産資源の保護及び漁業を含む）並びに河川環境の保全を考慮し、また、関連地域の社会経済情勢の発展に即応するよう、東北開発促進計画、仙台湾地区及び常磐・郡山地区新産業都市建設基本計画等との調整を図り、かつ、土地改良事業等の関連工事及び既存の水利施設等の機能の維持を十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、しばしば水害の発生している地域についての対策を重点として、次のように工事を実施する。 保全に関しては、郡山市、福島市、岩沼市等の沿川地域を洪水から防御するため、既設の七ヶ宿ダムのほか、三春ダム、摺上川ダム等のダム群を建設し、洪水調節を行い、下流の洪水を軽減するとともに、全川に亘って築堤、堀削、護岸等を施工する。さらに、内水対策を実施するほか河川環境の整備をはかる。	（２）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 阿武隈川水系では、洪水から貴重な生命、財産を守り、地域が安心して暮らせる社会基盤^{（ウタ）}の整備を図る。また、阿武隈溪谷、阿武隈峡や乙字ヶ滝^{（オツジガタキ）}に代表される古くから詠われてきた阿武隈川の自然豊かな環境と河川景観を保全・継承するとともに、地域の個性と活力、歴史や文化が実感できる川づくりを目指すため、関係機関や流域住民、地域住民と共通の認識を持ち、連携を強化しながら治水、利水、環境にかかわる施策を総合的に展開する。 このような考えのもとに、河川整備の現状、砂防、治山工事の実施状況、水害の発生状況及び河川の利用状況（水産資源の保護及び漁業を含む）並びに河川環境の保全を考慮し、また、関連地域の社会経済情勢の発展に即応するよう東北開発促進計画や地方拠点都市基本計画、環境基本計画等との調整を図り、かつ、土地改良事業等の関連事業及び既存の水利施設等の機能の維持を十分配慮し、水源から河口まで一貫した基本方針に基づき、段階的な整備を進めるにあたっての目標を明確にして実施することによって、河川の総合的な保全と利用を図る。 災害の発生の防止又は軽減に関しては、流域内の洪水調節施設により調節を行うとともに、堤防の新設、拡築及び河道掘削を行い河積を増大し、護岸等を施工し、計画規模の洪水を安全に流下させる。 また、<u>狭窄部や分散する集落等の地域では、災害危険区域の指定とともに、地形の特性を活かし、宅地嵩上げや輪中堤により効率的に洪水被害の軽減を図り、一方、遊水機能を維持・確保ができる地域では、遊水地や輪中堤により従来の遊水機能を維持しつつ周辺集落の治水安全度を効率的に向上させるなど、連続堤の整備以外の様々な手法により治水対策を講ずる。</u>沿川の低地地域においては、下水道事業等関連事業や関係機関と連携，調整を図りつつ、必要に応

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
利用に関しては、新産業都市として指定された仙台湾地区及び常磐、郡山地区等における水需要の増大に合理的な利用の促進をはかる。	じて内水被害軽減対策を実施する。また、地震防災を図るため堤防強化等を実施する。これらに加えて、整備途上段階で施設能力以上の洪水や計画規模を上回る洪水が発生した場合においても、被害をできるだけ軽減できるよう、必要に応じた対策を実施する。 さらに、近年多発する洪水被害をふまえ、洪水ハザードマップの作成の推進と広報等による認知の向上を図り、情報伝達体制及び警戒避難体制など地域防災計画や土地利用計画との調整、住まい方の工夫、氾濫しても被害を最小限にする対策等を関係機関や地域住民等と連携して推進する。 また、支川及び本川上流区間については、本支川及び上下流間バランスを考慮し、水系一貫とした河川整備を行う。 河川水の利用に関しては、都市用水等の安定供給や流水の正常な機能を維持するため、三春ダム、七ヶ宿ダムによる補給及び新たな水資源開発を行うとともに、広域的かつ合理的な水利用の促進を図る。さらに、渇水等の発生時の被害を最小限に抑えるため、情報提供、情報伝達体制の整備及び利水者相互間の水融通の円滑化などを関係機関等と連携して推進する。 河川環境の整備と保全に関しては、<u>歴史を育み詩情豊かな美しい川として、良好な景観資源の保全にも努めるとともに</u>、生活の基盤や歴史、文化・風土を形成してきた川の恵みを生かしつつ、自然環境との触れ合い、環境学習ができる場等の整備・保全を図る。また、舟運の歴史や文化等の各地域の特性を踏まえ、観光舟下りやいかだ下り、舟運復活への整備を行ない、河川を通じて地域間交流を推進する。 さらに、豊かな自然環境を有する流域の人々のかけがえのない財産として、動植物の多様な生息・生育環境の保全を図るため、河川整備にあたっては多自然型川づくり等を推進する。 特に、<u>遡上してくる天然のアユやサケ・サクラマスは、阿武隈川らしさを創</u>

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
	出するとともに貴重な水産資源となっていることから、これらの生息環境の保全・再生に努めるとともに、瀬・淵が連続し砂礫河床となっている早瀬等、アユやサケの産卵場の保全に努める。また、絶滅が危惧されるタコノアシ、ミクリ、カワヂシャなどの植物特定種については、その保全に努めるとともに、河川内の改変に伴う裸地化の防止に努める。 <u>健全な水循環系の構築に向けて良好な水質、水量の確保、保全等を図るため、流域全体で取り組む一斉水質調査等の実践活動との連携、水質の監視、水質の実態や改善に関する情報の提供などによる「阿武隈川サミット」への支援をはじめ、関係機関や地域住民と連携を図りながら、流域全体で一体となって総合的なビジョンの下に取り組んでいく。</u> 河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮できるよう適切に行う。 特に、阿武隈川では、狭窄部において洪水時に家屋の孤立や道路の寸断等の恐れがあるため、洪水時における河川巡視の強化及び迅速な河川情報の収集と提供に努める。堤防、堰、排水機場、樋門等の河川管理施設の管理については、常に良好な状態に保持し、操作の確実性を確保しつつ、高度化、効率化を図る。河川区域内における土石の採取については、洗掘の防止や魚類等の生息環境の保全の観点から適切に管理する。 また、豊富な自然環境が残されていることから、環境に関する情報も適切にモニタリングし、維持管理に反映させる。 流域の豊かな自然環境、歴史、文化を踏まえ、地域づくりの軸となる阿武隈川とするために、上下流の交流活動、河川愛護活動、河川清掃など流域の住民が自主的に行う河川管理への幅広い参画等を積極的に支援するとともに、沿川

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
	の自治体の地域計画と連携、調整を図りつつ、流域住民や関係機関との協働による河川管理を推進する。 さら、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供、共有することにより、河川と流域住民とのつながりを促進し、河川愛護精神の啓発、環境教育の支援及び住民の自発的な参加による川づくり、河川管理を推進する。

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）																												
2．河川工事の実施の基本となるべき計画に関する事項 （１）基本高水並びにその河道及び洪水調節ダムへの配分に関する事項 (イ)上流部 基本高水は福島上流域の対象雨量（2日雨量）を257mm とし、昭和23年9月、昭和41年6月洪水を主要な対象洪水として検討し、そのピーク流量を基準地点福島において7,000m³/sec とし、三春ダム等上流ダム群で1,200m³/sec 調節して、河道への配分流量を5,800m³/sec とする。 (ロ)下流部 基本高水は岩沼上流域の対象雨量（2日雨量）を252mm とし、昭和23年9月、昭和41年6月洪水を主要な対象洪水として検討し、そのピーク流量を基準地点岩沼において10,700m³/sec とし、七ヶ宿ダム、三春ダム、摺上川ダム等上流ダム群で1,500m³/sec を調節して河道への配分流量を9,200m³/sec とする。 基本高水のピーク流量等一覧表（単位：m³/sec） <table><tr><th>河川名</th><th>基準地点</th><th>基本高水のピーク流量</th><th>洪水調節施設による調整流量</th><th>河道への配分流量</th></tr><tr><td rowspan="2">阿武隈川</td><td>福島</td><td>7,000</td><td>1,200</td><td>5,800</td></tr><tr><td>岩沼</td><td>10,700</td><td>1,500</td><td>9,200</td></tr></table>	河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調整流量	河道への配分流量	阿武隈川	福島	7,000	1,200	5,800	岩沼	10,700	1,500	9,200	2．河川の整備の基本となるべき事項 （１）基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 基本高水は、昭和33年9月、昭和61年8月、平成14年7月洪水を主な対象洪水として検討した結果、そのピーク流量を基準地点福島において7,000m³/s とし、このうち流域内の洪水調節施設により1,200m³/s を調節して河道への配分流量を5,800m³/s とする。 また、基準地点岩沼において10,700m³/s とし、このうち流域内の洪水調節施設により1,500m³/sを調節して河道への配分流量を9,200m³/sとする。 基本高水のピーク流量等一覧表（単位：m³/s） <table><tr><th>河川名</th><th>基準地点</th><th>基本高水のピーク流量</th><th>洪水調節施設による調整流量</th><th>河道への配分流量</th></tr><tr><td rowspan="2">阿武隈川</td><td>福島</td><td>7,000</td><td>1,200</td><td>5,800</td></tr><tr><td>岩沼</td><td>10,700</td><td>1,500</td><td>9,200</td></tr></table>	河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調整流量	河道への配分流量	阿武隈川	福島	7,000	1,200	5,800	岩沼	10,700	1,500	9,200
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調整流量	河道への配分流量																									
阿武隈川	福島	7,000	1,200	5,800																									
	岩沼	10,700	1,500	9,200																									
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調整流量	河道への配分流量																									
阿武隈川	福島	7,000	1,200	5,800																									
	岩沼	10,700	1,500	9,200																									

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 計画高水流量は、須賀川において2,800m³/sec とし、釈迦堂川、大滝根川、荒川等の支川を合わせて福島において5,800m³/sec とし、さらに摺上川、広瀬川、白石川等の支川を合わせて岩沼において9,200m³/sec とし、河口まで同流量とする 阿武隈川計画高水流量図 (単位：m³/sec)	(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 計画高水流量は、須賀川において2,400m³/s とし、釈迦堂川、大滝根川、五百川、移川、荒川等の支川の流量を合わせて福島において5,800m³/s とし、さらに摺上川、広瀬川等の支川の流量を合わせて丸森において、7,100m³/s、白石川等の支川の流量を合わせて岩沼において9,200m³/s とし、河口まで同流量とする。 阿武隈川計画高水流量図 (単位：m³/s)

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）																																																																
3．河川工事の実施に関する事項 （１）主要な地点における計画高水位、計画横断形その他河道計画に関する重要な事項 イ．計画高水位 本水系の主要な地点における計画高水位は、次表のとおりとする。 主要な地点における計画高水位一覧表 <table><tr><th>河川名</th><th>地点名</th><th>河口からの距離(km)</th><th>計画高水位 T.P.(m)</th></tr><tr><td rowspan="7">阿武隈川</td><td>須賀川</td><td>河口から 147．8</td><td>237．80</td></tr><tr><td>郡 山</td><td>〃 136．8</td><td>227．33</td></tr><tr><td>二本松</td><td>〃 108．0</td><td>198．52</td></tr><tr><td>福 島</td><td>〃 77．2</td><td>64．28</td></tr><tr><td>伊達崎橋</td><td>〃 61．8</td><td>47．22</td></tr><tr><td>丸 森</td><td>〃 37．0</td><td>23．23</td></tr><tr><td>岩 沼</td><td>〃 8．0</td><td>8．28</td></tr><tr><td>釈迦堂川</td><td>中 宿</td><td>阿武隈川合流点から 0．6</td><td>237．64</td></tr><tr><td>荒 川</td><td>八木田</td><td>阿武隈川合流点から 1．4</td><td>69．95</td></tr><tr><td>白石川</td><td>大河原</td><td>阿武隈川合流点から 7．5</td><td>18．55</td></tr></table> 注）T.P． 東京湾中等潮位	河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	阿武隈川	須賀川	河口から 147．8	237．80	郡 山	〃 136．8	227．33	二本松	〃 108．0	198．52	福 島	〃 77．2	64．28	伊達崎橋	〃 61．8	47．22	丸 森	〃 37．0	23．23	岩 沼	〃 8．0	8．28	釈迦堂川	中 宿	阿武隈川合流点から 0．6	237．64	荒 川	八木田	阿武隈川合流点から 1．4	69．95	白石川	大河原	阿武隈川合流点から 7．5	18．55	（３）主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項 本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。 主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表 <table><tr><th>河川名</th><th>地点名</th><th>河口からの距離(km)</th><th>計画高水位 T.P.(m)</th><th>川 幅 (m)</th></tr><tr><td rowspan="5">阿武隈川</td><td>須賀川</td><td>147．8</td><td>237．49</td><td>170</td></tr><tr><td>福 島</td><td>77．2</td><td>63．93</td><td>200</td></tr><tr><td>丸 森</td><td>37．0</td><td>23．10</td><td>230</td></tr><tr><td>岩 沼</td><td>8．0</td><td>8．14</td><td>710</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 注）T.P． 東京湾中等潮位	河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	川 幅 (m)	阿武隈川	須賀川	147．8	237．49	170	福 島	77．2	63．93	200	丸 森	37．0	23．10	230	岩 沼	8．0	8．14	710				
河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)																																																														
阿武隈川	須賀川	河口から 147．8	237．80																																																														
	郡 山	〃 136．8	227．33																																																														
	二本松	〃 108．0	198．52																																																														
	福 島	〃 77．2	64．28																																																														
	伊達崎橋	〃 61．8	47．22																																																														
	丸 森	〃 37．0	23．23																																																														
	岩 沼	〃 8．0	8．28																																																														
釈迦堂川	中 宿	阿武隈川合流点から 0．6	237．64																																																														
荒 川	八木田	阿武隈川合流点から 1．4	69．95																																																														
白石川	大河原	阿武隈川合流点から 7．5	18．55																																																														
河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	川 幅 (m)																																																													
阿武隈川	須賀川	147．8	237．49	170																																																													
	福 島	77．2	63．93	200																																																													
	丸 森	37．0	23．10	230																																																													
	岩 沼	8．0	8．14	710																																																													

阿武隈川水系工事実施基本計画と阿武隈川水系河川整備基本方針（案）の対比表

阿武隈川水系工事実施基本計画	阿武隈川水系河川整備基本方針（案）
（３）主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 阿武隈川における既得水利としては、館矢間から下流において、農業用水として約21.5m³/sec、上水道用水として約0.3m³/sec、工業用水として約3.5m³/sec、合計約25.3m³/sec であり、これに対し、館矢間における過去9箇年間の平均湧水流量は36.3m³/sec、平均低水流量は57.8m³/sec である。 流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、取水の現況、河口閉塞防止並びに水質保全等を考慮し、館矢間地点においておおむね40m³/sec とするが、さらに調査検討のうえ決定するものとする。	（４）主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 ^{たてやま}館矢間地点から下流における既得水利としては、農業用水として約21.7m³/s、上水道用水として約0.4m³/s、工業用水として約3.5m³/s、雑用水として約0.025m³/s、合計約25.6m³/s の取水がある。 これに対して館矢間地点における過去39年間（昭和38年～平成13年）の平均湧水流量は41.4 m³/s、平均低水流量は59.6 m³/s である。 館矢間地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、利水の現況、動植物の保護、漁業等を考慮し、おおむね40 m³/s とする。 なお、流水の正常な機能を維持するため必要な流量には、水利流量が含まれているため、館矢間地点下流の水利使用の変更に伴い、当該流量は増減するものである。

(参考)阿武隈川水系図

